

1. 件名：「川内発電所 1、2号機の地震等に係る新基準適合性審査（標準応答スペクトルの規制への取り入れに係る変更）に関する事業者ヒアリング(1)」

2. 日時：令和3年5月26日（水）16時05分～18時00分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者（※：テレビ会議システムによる出席）

原子力規制庁：内藤安全規制調整官、熊谷管理官補佐、佐口主任安全審査官、海田主任安全審査官、谷主任安全審査官、西来技術研究調査官、松末技術参与、呉統括技術研究調査官、田島技術研究調査官

九州電力株式会社：土木建築本部長 他10名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

- ・川内原子力発電所1号炉及び2号炉 基準地震動の策定について（標準応答スペクトルを考慮した地震動）
- ・川内原子力発電所1号炉及び2号炉 基礎地盤及び周辺斜面の安定性の概要（標準応答スペクトルを考慮した地震動）

時間	自動文字起こし結果
0:00:01	本よろしくお願ひします。
0:00:04	規制庁クマガエです。
0:00:10	それでは、これからですね、玄海原子力発電所 1 号炉及び 2 号炉の
0:00:14	基準地震動の策定についてということで、
0:00:18	標準応答スペクトルを考慮した地震動について御説明をお願いいたします。
0:00:24	前回営業収益
0:00:27	先代原子力発電所でよろしいですね。
0:00:30	はい、よろしいでしょうか。
0:00:36	はい、九州電力のイマバヤシです。本日はよろしくお願ひいたします。
0:00:54	当社は 4 月 26 日に震源を特定せず策定する地震動につきまして、設置変更許可の申請を実施させていただきました。この中で a. 6 につきましては、基準地震動及び基礎地盤の安定性評価、
0:00:57	この 2 点について申請を行っております。
0:01:17	従いまして本日はこの 2 点について資料を準備させていただきましたので、御説明をさせていただきたいと思っております。まず基準地震動につきましては、標準応答スペクトルに基づきまして、地震動を策定した結果を SS3 ということで、新たに基準地震動として追加しております。
0:01:32	地震動の評価に当たりましては、地盤モデルを既許可で説明した内容から一部見直しを行っておりますので、こうした見直しの内容も含めまして、地震動評価の全体についてご説明をさせていただきます。
0:01:46	次に基礎地盤の安定性評価につきましては、詳細は地震動の審査が終了後に御説明を考えておりますので本日は概要説明ということでさせていただければと思っております。
0:02:02	ヒアリングの進め方につきましてはまず基準地震動についての御説明をさせていただきますまして、そこで一旦区切りまして、その後基礎地盤の方というような順番に進めさせていただきたいと思っておりますが、それでよろしいでしょうか。
0:02:07	規制庁クマガエです。はい、承知いたしました。よろしくお願ひします。
0:02:12	それでは基準地震動のほうから資料の説明をさせていただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。
0:02:33	九州電力のモトムラです。資料 PTs-001 を用ひまして、仙台の表情応答スペクトルを考慮した地震動についてご説明させていただきます。さす開いていただきまして、22 ページ目になります。本日の御説明の流れを記載してござひましてこの中で、

0:02:49	名ご説明させていただきます。また参考としまして最後に地震基盤相当面に関する検討を複数の方法による模擬地震範囲の検討、今回の影響が地下構造モデルの精緻化に伴う
0:02:56	敷地ごとに震源を特定して策定する地震動への影響評価の結果についてご説明いたします。
0:03:16	3 ページ目、4 ページ目につきましては、今回の設置許可基準規則解釈別記 2 の科医生活を進めさせていただきます。で、個別に上になります。平成 26 年 9 月 10 日に許可をいただいております。
0:03:23	仙台の基準地震動と赤枠で囲んでおりますが、今回の検討箇所を示しております。
0:03:31	6 ページ以降におきまして今回の標準応答スペクトルを考慮した地震動の検討を御説明させていただきます。
0:03:48	6 ページにですけれども、標準応答スペクトルを考慮した地震動の評価の概要を示しております、左側のフロー丸一で地下構造モデルの設定、②地震基盤相当面の設定。
0:04:03	③、地震基盤相当面における模擬地震班設定④解放基盤表面における地震動の設定で最後の⑤で、その地震動と現行の基準地震動の比較を行ってございます。
0:04:07	次のページっていただきまして、
0:04:26	7 ページ以降で地下構造モデルの設定についてご説明いたします。7 ページではですね、時評価のときの資料を再教室再掲しておりますが、許可では敷地ごとに震源を特定して策定する地震動の断層モデルを用いた手法において、
0:04:41	地下構造モデルを設定しております。具体的には断層モデルを用いた手法のハイブリット合成法における長周期体の理論的方法を対象に地下構造モデルを設定しているものでございます。
0:04:58	続いて 8 ページに行ってくださいまして、8 ページ目ですが、当社としましては、許可以降もさらなる安全性信頼性向上を目的に継続的に敷地地盤の地震観測を実施するとともに、
0:05:03	最新の技術的知見やデータの取得に努めて参りました。
0:05:19	これらの許可の移行取得しました地震観測記録や、最新の技術的な知見等も含めた多面的な検討により、今回地下構造モデルの精緻化を実施しております。
0:05:38	なお、許可のモデルは増収期待を対象にしておりましたが、今回の表情応答スペクトルを考慮した地震動では短周期側も含んでおりますので、これも踏ま

	えまして、10 ページ以降、これ以下の①②に示しております。検討、検証を行 いまして、
0:05:45	表情応答スペクトルを考慮した地震動評価に用いる地下構造モデルを設定し ております。
0:06:05	10 ページに行きましてここからは、敷地地盤の鉛直アレイ観測記録による検 討及び検証を実施しております。一応会派の震災以降も鉛直アレイによる地 震観測を継続して実施しております、新たに
0:06:21	2016 年熊本地震を含む 58 自身の観測記録を取得しております、合計でで すね、148 地震となっております。これらの観測記録を用いてこれ以降、検討 を実施しております。
0:06:39	10 ページ目になります。これは許可の審査でも、敷地地盤で得られた主な御 自身の観測記録の伝達関数を用いて、地盤同定を実施しております、具体 的な検討につきましては、11 ページと 12 ページに、
0:06:54	示しておりますが、この時に同定されております。地盤減衰について 10 ペー ジの図のほうに示しておりますが、同定された地盤の減衰の下限はです、5 程度となっております。
0:07:12	続いて、13 ページにていただきまして、13 ページ目からは許可のときの審査 と同様に、以下に示しております。1 許可以降に取得した地震観測記録を加え た二重地震の観測記録を用いて、
0:07:17	伝達関数による地盤減衰の同定を行っております。
0:07:35	その結果がです、14 ページに示しておりますけども、こちら右下のほう、地 盤減衰の同定結果を示しております。ええ加減が旧値で 5.90 となっております 、一応審査の先ほどの Q 値。
0:07:40	どのように大きな減衰を示しているところでございます。
0:07:56	続きまして、15 ページからなんですけども、一応この震災以降の最新の技術 的な知見区としまして伝達関数による件数検討等は異なりまして、地下構造モ デルを用いずに、
0:08:06	鉛直アレイの観測記録から直接地盤減衰を推定可能な地震は干渉法を用い た検討を実施しております。
0:08:25	具体的にはです、津中の観測記録には入射箱販社緩和生まれているため、 左下に示しております当時土地表の観測記録に対して、土の観測記録を今後 流出をすると、右下に示しております通り、
0:08:29	入社はと販社歯が分離されます。
0:08:39	この入社はと入社反対する販社の振幅の比率に基づいて、地盤減衰の推定 を実施しております。

0:08:53	16 ページになりますけども、地震は干渉法の検討につきましては、伝達関数による検討と同様に、20 地震の観測記録を用いて鋭意検討を実施しております。
0:09:07	地盤減衰の推定にあたってはアンバランス 2004 による指標をもとにですね、全地震の派遣の平均と各地震のハケの相関がよいものを抽出して検討を行っております。
0:09:25	17 ページに自信は干渉法による地盤減衰の推定結果を示しております。この図を見ていただくと、地盤減衰Q値の下限は 8 程度となっております。
0:09:36	続いて 18 ページに、これまでの伝達関数による減等と地震は監視手法による検討の結果をA3 のほうに再掲しております。
0:09:54	これを見ますと、両手法で得られた地盤減衰Q値の下限は 8 程度となっております。これを踏まえまして、地盤減衰の不確かさを考慮しまして、教条とスペクトルの評価で用いる表層の地盤減衰はQ値で、
0:09:57	12.5 を設定しております。
0:10:16	続いて 19 ページ以降になりますけども、これからは設定したQ値の妥当性検証を目的に左下の図に示しております通りELマイナス 118.5mの
0:10:34	最深部の地震計の観測記録を入力箱をしまして、旧値 12.5 を設定しました地下構造モデルを用いて、一次元波動論に基づき推定した解放基盤表面の応答班オープンスペクトルと、
0:10:41	同位置の地震計における観測記録の応答スペクトルとの比較を実施しております。
0:10:56	19 ページの右のほうの図から 29 ページ目まで、先ほど検討対象としました。20 地震の観測記録の応答スペクトルを用いた検証結果を示しております。
0:11:03	図にはですね、参考としまして、既許可のQ値 100 の結果も示しております。
0:11:22	これらの増見ますと青線の市岡のQ値 100 の結果よりも、赤線のQ値 12.5 のほうは、黒線の観測記録にAより近づきまして、また、全体としましては、赤線の 92.5 のほうが、
0:11:35	黒線の観測記録の応答スペクトルより大きい傾向にありまして、設定したQ値の 12.5 の妥当性が確認できていると考えております。
0:11:40	スマートフォン飛びまして、
0:11:42	はい。
0:11:45	30 ページ目になります。
0:11:53	前のページまでで設定しましたQ値の設定範囲を検討になります。
0:12:11	31 ページ目から 33 ページ目までにですね、原子炉設置位置付近の速度層断面を示しております。これまでの検討で用いた鉛直アレイ地震計が設置されているELマイナス 118.5mより、朝日新聞

0:12:29	それと、ELマイナス 118.5mからELマイナス 200mまでの速度層に大きな差異が見られないということから、先ほど設定しました鉛直アレイ地震観測記録に基づき設定した地盤減衰Q値 12.5。
0:12:34	いえるマイナス 200mまで設定してございます。
0:12:53	続きまして、34 ページ以降になりますが、先ほど設定しました。ELマイナス 200mまで 200mまで設定した地盤減衰Q値の 12.5 の妥当性について、地震観測記録に基づく地盤増幅率による
0:12:55	検証を実施しております。
0:13:14	友沢ほか 2019 という、文献があるんですけども、これによりますと左図、下の図の通り、九州地域で九州地域周辺で発生した地震におけるKネットKiK-net 先代原子力発電所の玄海原子力発電所で、
0:13:28	ええられた観測記録を用いて、九州地域の震源特性、伝播経路特性、サイト増幅特性についてAからブロックインバージョン解析により、推定されております。
0:13:47	35 ページにつきまして、主さんほか 2019 の地盤増幅率の算出では地中観測点がVs3000 程度の地震基盤とみなせるKiK-net置いた 09、鹿児島KiK-net 鹿児島
0:13:53	12 の住民の観測点を基準点としておりまして、
0:14:00	重さほかで推定された地盤増幅率はAVS3000 からの地盤増幅率と考えられます。
0:14:12	3 ほか、2019 では、仙台の方のサイト増幅特性も推計されておりました、これを用いて検証を実施しております。
0:14:28	具体的には左下の表み示しております。今回の標準方向スペクトルの評価に用いる地下構造モデルのVs3000 相当の総条文から地方までの増幅率を算出しまして、
0:14:48	土佐丘の地盤増幅率と比較をしております。その結果が右下に示しておりますけども、黒線の友沢ほか 2019 の地盤増幅率より大きい傾向にありまして、いえるマイナス 200mまで設定した地盤減衰Q値 12.5 の妥当性を
0:14:51	確認しているところでございます。
0:15:03	これらをまとめまして、36 ページになりますが、今回の標準応答スペクトルの評価に用いる地下構造モデルのまとめを示してございます。
0:15:05	。
0:15:13	続きまして 37 ページになります。今度は地震基盤相当面の設定ということになります。

0:15:30	地震基盤相当面は今回新たに定義されたものですが、地震基盤相当面の考え方についてこのページでまとめてございます。設置許可基準規則解釈、検討チーム報告書、それと参考資料
0:15:41	弱 4601-201 号のAの大とあるの解説を見ますと、下のほうに書いてますけども、地震基盤相当面の物理的な意味としては、
0:15:52	地震基盤からの地盤増幅率が小さく、地震動として地震基盤暴行とみなせる地盤の解放面と解釈できまして、
0:16:00	Vsで言いますと 2000 から 3000 程度と解釈できると当社考えております。
0:16:21	この解釈を踏まえまして、38 ページになりますけども、仙台の地震基盤相当面の設定ですが、標準応答スペクトルの評価に用いる地下構造モデルのVsでいうと 2150 のa層上限であります。ELマイナス 480mに
0:16:37	仙台の地震基盤相当名を設定しております。すいません。文章のほうなんですけども括弧内にいえるマイナス 100mとなっておりますが、ELマイナス 480 m-a誤記です。
0:16:39	申し訳ありません。
0:16:40	はい。
0:16:52	続きまして、39 ページになりますけども、地震基盤相当面における上場応答スペクトルに適合する模擬地震はの作成になります。
0:17:06	39 ページの設置許可基準規則解釈別記 2 の標準応答スペクトルのコントロールポイントと 40 ページにケース特性を示しておりますが、このケース特性を用いまして、
0:17:12	標準応答スペクトルに基づく模擬地震は作成しております。
0:17:25	40 ページの継続性につきましてはMw6.5 相当のマグニチュード 6.9、あと震源近傍ということで等価震源距離 X_{eq} 10 キロとしております。
0:17:37	続きまして、41 ページ、42 ページ目に水平方向ポイント方法がMansinhaの作成結果を示しております。
0:17:47	それぞれ右上に応答スペクトル比SI比を記載しておりますがいずれも基準値をまずしていることを確認してございます。
0:18:05	43 ページ目からは開講基盤表面における地震動の設定ということで、先ほど作成しました地震基盤相当面の模擬地震は地震基盤相当面として設定しましたいえるマイナス 480 メーターから
0:18:11	地下構造モデルを用いた一次元波動論により解放基盤表面までの
0:18:26	地震ハム伝播特性を考慮して設定しております。44 ページ目が解放基盤表面の地震動の設定の結果になっております。応答スペクトルと加速度時刻歴派遣を示しております。

0:18:38	設定した地震動については、水平方向で 546 ガル、鉛直方向で 402 があると なっております。
0:18:47	45 ページ目に、現行の基準地震動報の応答スペクトルとの比較を示してあり ます。
0:18:53	この図につきましては、政府の 1 億路線 S_s-2 を緑線、
0:19:06	今回の上旬応答スペクトルを考慮した地震動を水色の線で示しております。こ ちら見ていただくと、水平方向は現行基準地震動に包絡されているんですけ ども。
0:19:20	鉛直方向については、一部の周期体で現行の基準地震動を上回っております ので、今回の標準応答スペクトルを考慮した地震動を S_s-3 として追加してあ ります。
0:19:31	46 ページ目が今回新たに追加した S_s-3 を見ますと先代の基準地震動の最 大加速度を示しております。
0:19:53	続きまして、47 ページ以降については、参考資料となります。まず 47 ページ 目からは参考の 1 としまして、仮想的な地震基盤相当面の設定及び検討とい うことで 38 ページに示しました地震基盤相当面は、
0:19:57	VS2150 の層状面に設定しておりますが、
0:20:09	設置許可基準規則解釈別記 2 に示される AV_s2200 を下回るため、次ページ 以降についてにおいて、
0:20:13	新たに仮想的に V_s2200 のそう設定しまして、
0:20:19	介護基盤表面までの地盤増幅率の検討を実施しております。
0:20:30	48 ページ目です。VS2150 の a 層といいますのは、7 ページのところに示して おります通り、
0:20:32	既許可におきまして、
0:20:37	微動アレイの速度構造をもとに設定しております。
0:20:42	参考として許可の審査資料を再掲しております。
0:20:46	この微動アレイ観測に基づきまして、
0:20:48	はい。
0:20:52	49 ページ目から検討を行っております。
0:21:03	具体的には、左の表を左下の表の許可の地下構造モデルにおける $V_s2.15$ の 層を
0:21:06	右側の表面を 2 件に分割しまして、
0:21:09	新たに VS2100。
0:21:18	4400 の層を設けまして、この層の上限の振動を変数とした再同定を実施して おります。

0:21:24	50 ページ目に再同定結果を進めしております。
0:21:27	うん。
0:21:39	再同定した結果、AVS2200Vp4400 の層状面はいえるマイナス 999.5m という結果が得られております。
0:21:40	はい。
0:21:51	これを踏まえまして、51 ページ目ですが、前のページで得られた結果を 36 ページに示します。表示法ソースとして用いる。
0:21:53	着か構造モデルに反映した。
0:22:05	仮想的な地下構造モデルを設定してます。今回用いている地下構造モデルの地震基盤から解放基盤表面までの地盤増幅率①と、
0:22:12	仮想的に設定しました。Vs2200 の層から解放基盤表面までの
0:22:16	地盤増幅率②を比較しております。
0:22:28	右下の図は、地盤増幅率 0 に①で除した比率を示しておりますので、一応下回ると、①のほうが大きいということになります。
0:22:37	これを見ますと、短周期側では一応下回っておりますので、①の地盤増幅率の方が大きい傾向にあります。
0:22:52	これも踏まえまして、標準応答スペクトルの評価に用いる地下構造モデルにおけるVS2150 の層状面に仙台では地震基盤相当面を設定しております。
0:22:53	。
0:23:02	52 ページからは参考の 2 としまして、複数の方向による模擬地震保険等の御説明です。
0:23:17	改正されました審査ガイドには記載の通り、震源を特定せず策定する地震動による基準地震動については、もう地震動を作成する際には複数の方法により確認すると。
0:23:24	記載されております。検討チームでは製販の重ね合わせによる移送を用いる方法。
0:23:40	実観測記録の位相を用いる方法、断層破壊過程を考慮した軍遅延時間を与える方法が例示されております。以下それぞれですね、方法へ方法B方法cといたします。
0:23:54	今回の標準応答スペクトルを考慮した模擬地震幅は先ほど 39 ページから 40 中 42 ページに示しました通り、西縁重ねる重ね合わせによるA層を
0:23:57	用いる方法により作成してありますが、
0:24:04	次ページ以降で方法を以外の方法B支援による
0:24:07	模擬実現を作成しまして検討を行っております。
0:24:09	うん。

0:24:14	53 ページになります。
0:24:20	方法Bと方法cの作成の方法について説明しております。
0:24:21	うん。
0:24:31	方法Bにつきましては左下に表で示しておりますけども、1995、7 年 5 月 13 日の鹿児島県北西部地震の
0:24:35	敷地地盤における地震観測記録を採用してます。
0:24:42	方針につきましては、右下の檀ほか 2010 による横ずれ断層を想定した。
0:24:50	震源モデルを用いまして、サブ岡崎 2013 の継続性モデルを採用しております。
0:25:01	54 ページと 55 ページ目に方法Bと後方支援基づく模擬地震はの作成結果を示しております。
0:25:07	56 ページにさせていただきますって、
0:25:19	方法Aから方法cまでについては、標準応答スペクトルに適合するように作成しておりますので、オープンスペクトル上では大きな差異は見られない。
0:25:22	見られませんかということで、
0:25:30	応答スペクトル以外の手法で、構造物への影響の観点から企画検討をこの後、実施しております。
0:25:43	具体的には累積絶対速度cm10 に地震入力エネルギースペクトル、③弾塑性応答スペクトルでの件、比較検討を実施しております。
0:25:49	57 ページについては衛生部位置の話です。
0:26:05	詳細については水谷ほか 2008 で記載されてますので割愛しますけども、AC AV1 のイメージとしましては、加速度のある敷地に対してそれを越えたところの面積を免責していくものです。
0:26:14	今回の点検等では 300 ガルを敷地としまして、cm以上算出しております。
0:26:16	。
0:26:20	58 ページ目が、市営V1 の結果です。
0:26:28	左のほうの町見ると、広報映画方法B及び奉仕より大きいことがわかりますし、
0:26:30	。
0:26:35	続いて 59 ページ目からは、地震入力エネルギースペクトルになります。
0:26:47	地震入力エネルギースペクトルは地震動の全継続時間において、構造物に記録される総エネルギー量について、構造物の固有周期とか。
0:26:54	こういう収益との関係を表現したものでこのような式で算出されます。

0:27:11	60 ページ目が、地震入力エネルギースペクトルの算出結果になります。これを見ますと、短周期側におきまして、赤の方法Aが青の後備及び緑の奉仕より大きい言葉あります。
0:27:30	続いて 61 ページ目になります。ここからは弾塑性応答スペクトルになりますが、これまでの検討については、弾性領域によるおける検討でしたが、塑性領域を考慮した検討になります。
0:27:43	弾塑性 1 質点系モデルを用いまして塑性率が 1 から 4 になるように、江府せん断力を算出しまして、それを重量で除して降伏せん断力係数を算出します。
0:27:52	この降伏せん断力係数と周期との関係を示したものを今回弾塑性応答スペクトルと延ばさせていただいております。
0:28:09	62 ページ目に弾塑性応答スペクトルの算出結果を示しております。これによりまして、塑性率が大きくなるにつれまして、周期側におきまして黒のを覚えが方法B、
0:28:14	及び法方針比べ多くなっていることがわかります。
0:28:27	63 ページ目が、これまでの検討のまとめです。前のページまでの検討から方法B及び方針基づいて作成した模擬地震班。
0:28:43	比べ栄光公園基づき作成した模擬地震はのほうが優位性が確認されましたので、今回の標準応答スペクトルを考慮した地震動は衛生歯の化石な重ね合わせによるA層用いる方法を採用してございます。
0:28:59	続いて、64 ページ目からは参考の 3 ということで、今回の地下構造モデルの精緻化に伴って、敷地ごとに震源を特定して策定する地震動への影響評価に関する検討を示しております。
0:29:12	まず一つ目ですけれども、検討地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価において、経験的グリーン関数法と理論的方法によるハイブリッド合成法実施しております。
0:29:29	今回標準応答スペクトルを考慮した地震動評価に用いる地下構造モデルを用いて最後理論的方法による地震動評価を実施しまして、経験的グリーン関数法とのハイブリッド合成法による評価を実施してございます。
0:29:41	で、二つ目につきましては、既許可の審査のときに、経験的グリーン関数法による地震動評価の妥当性確認のため、統計的グリーン関数法による地震動評価を実施しております。
0:29:53	今回表情応答スペクトルを考慮した地震動評価に用いる地下構造モデルを用いまして、再度統計的グリーン関数法による地震動評価を実施しております。
0:30:14	65 ページ目、66 ページ目が一つ目の検討結果になります。これによりまして、表現応答スペクトルを考慮した地震動評価に用いる地下構造モデルを用いて

	最後理論的方法による地震動評価を実施し、前づくりに関する法とのハイブリッド合成法による評価
0:30:22	を実施した結果、一応ハイブリット合成法による地震動評価結果と映像であることを見てます。
0:30:29	許可のものが緑線、今回が青線になりますがほとんど重なってるような状況です。
0:30:39	続きますと、統計的グリーン関数ホーム当選券創設けども、67 ページの 68 ページ目が、
0:30:44	既許可の審査の時の資料になります。これに従って
0:30:59	目標 19 ページ目、70 ページ目に、今回の検討結果をして示しております。これによりますと、一応経験的グリーン関数法による地震動評価結果の妥当性を再確認できたかなと思っております。
0:31:04	許可のものが緑線、今回評価したものが大勢になりますが、
0:31:09	再度妥当性が確認されたと考えております。
0:31:13	説明をは以上でございませう。
0:31:14	はい。
0:31:19	規制庁クマガエです。ご説明ありがとうございました。
0:32:26	規制庁のほうですと、私ら、
0:32:31	確認いただくことなんてあり得ます注 4 ページの
0:32:34	そこの左の II、
0:32:36	ちょっと確認したんですけど。
0:32:41	今回がもう 1 回再度
0:32:43	同定して、
0:32:48	の計算のベンダー関数のほうが赤線のほうで左のほうで、
0:32:52	今長計どの方が観測どう
0:32:55	の理論のほうが、
0:32:58	結構再建できると思うんですが、
0:33:00	の水源のほうがですね。
0:33:01	特に、
0:33:04	Tephra2 以上の方で、
0:33:09	議論の方がかなり小さくなってますが、
0:33:20	玄海サイトを強めると見解が結構いい結果になってますので、今回は川内だけでこういう結果になっている所理由。
0:33:24	何か考察してますかね、ちょっと確認いただきたい。

0:33:37	九州電力モトムラです。ご質問続いてですけども、確かにおっしゃる通り玄海のほうが非常に合ってるかなと思ってます。
0:33:51	仙台についてはですね、もともと再稼働審査の時から同じような検討はしておりますけども、なかなか合いがよくないというところは認識しておりますが、
0:34:01	仙台の地下構造モデルについては、伝達関数で速度構造を決めてるわけでございませんで、7 ページ。
0:34:14	地下構造モデルの設定根拠を示しておりますが、結構浅いところは先ほどご説明しました微動アレイのほうで一番てるところもありまして、
0:34:34	なかなかちょっと伝達関数の合いは良くないかなと思っております。ただ今回の地盤減衰の設定についてはですね、伝達関数だけに頼ってるわけではございませんで、先ほどご説明しました信アカン法みたいな、別の最新の知見の方法を使って、
0:34:42	しますので、いろいろ多面的なことを検討しながら、今回地盤減衰を設定してございます。
0:34:44	以上です。
0:34:47	回答ありがとうございました。あと、
0:34:50	どっち気づいております。
0:34:58	この件について、これでいいですけどもちょっと確認さえもして 3 点確認いただくれ町を今日ベンチのほうで、
0:35:01	19 以降の方は
0:35:04	観測となんか
0:35:08	計算の王道はオーケー企画てます。
0:35:13	ここで状況っていうのは乙のポイントをそのまま読むと、
0:35:17	解放基盤面における地震
0:35:22	おろす脈と比較てますからそうはっきり取りハード理解でいいですか。
0:35:28	九州電力のモトムラでございます。
0:35:34	はぎとり派ではございませんで地中の +F で比較しております。
0:35:36	はい。
0:35:45	お願いでマサノそうするとこの書きぶりのほうですね、解放基盤面におけるではなくて買う基盤の深さの値。
0:35:48	このような表現が正しいと思います。
0:35:57	九州電力のモトムラです。確かにおっしゃる通りなので、修正させていただこうと思います。ありがとうございます。
0:36:11	先ほどの方、77 ページの 94 ページ 4 ページのほうがなんかでいろんな計算が小さくてちょっとコアなんですけども、実際に各図とそんなに、

0:36:14	悪くないですから、
0:36:16	そうすると、
0:36:19	有価なの。
0:36:27	14 ページの II がちょっと心配に何か不要な懸念が与えていますから、
0:36:29	仮に、
0:36:33	急にFSR通知に連行ある 92. 項、
0:36:43	を使って連絡はずなんか計算して各たらどういう形になっているか、ちょっとこれも比較してますからちょっと確認と、
0:37:03	九州電力のモトムラでございます。先ほどのコメントですけれども、今回ちょっと直接的に 12.5 で比較はしてませんので多少元帥がつい小さくなるセンスだと思うので、間合いは
0:37:06	やってくるかなとは思いますがちょっと確認させてください。
0:37:13	まだまだ大引き続きコメントがありますけど。
0:37:16	一番対 1 のほうが
0:37:21	なんていう 4-36 号が今回のポイントをどうなってると思いますが、
0:37:23	今回の
0:37:27	鉛直アレイのほうが信用できるのほうが、
0:37:29	大体、
0:37:31	家族をはっきりドル計算を、
0:37:46	いろんなものをはっきり書くとさうすると鉛直は雨の間の今の口頭の方があ る程度保守的に売れる設定してますと理解できますが、問題の法案線。
0:37:50	のづくアレイの最も深いところから、
0:37:53	今の地震基盤面相当の
0:37:55	秋田の方の
0:37:58	当店水道課設定の方が、
0:38:03	これが制度だと制度化な制度性を示す必要がありますが、
0:38:06	今の資料の構成から見ると、
0:38:10	沼沢ほかの 2019-
0:38:13	引用して設定妥当性を説明しますね。
0:38:17	でも後ろとマザーの発表がね。
0:38:21	2 ページしかないですよねページ程度しかないさとクロムでもないから。
0:38:24	これ引用するより、
0:38:27	検証そのものの内容、
0:38:32	もう少し詳細説明に手軽ではないかと感じてます。
0:38:34	今年度です。

0:38:44	九州電力のモトムラです。論文を引用するのではなくて検討内容を詳細に書いたほうが良いという御指摘でよろしいでしょうか。
0:38:49	ちょっとダイセツ思います。
0:38:52	承知いたしました。
0:39:01	私はコメントは以上です。
0:40:18	規制庁サグチですけれども、
0:40:21	ちょっと細かいことも含めてですね。
0:40:25	幾つか確認させてください。
0:40:37	当然の許可のときって、もう大分前になるので、場合によって今の審査チームでほとんど人が多分当時
0:40:41	審査に当たってた人間が、
0:40:47	今はもうほとんどいないので、そういうところも含めてちょっと既許可の方も含めて確認をさせていただきたいんですけど。
0:40:51	まず7ページで来許可の、
0:41:00	地下構造、特に理論的方法に用いる地下構造モデルなんですけど、このとき
0:41:07	旧値っていうのはどういう形で、これ決められてたんでしたっけ。
0:41:13	九州電力のモトムラです。
0:41:17	既許可のQ値についてはですね、当時あまり
0:41:26	こちらから御説明してないんですけども、一般的に既往の知見に基づいてですね大体Vsの
0:41:45	10分のVsだとか15分のVsとかそういった形で設定するやり方もあると思うので、例えばVsが1500ぐらいの10とか15では100というような設定を
0:41:50	してますけども、地震本部の方とかの長周期の計算とかも、
0:41:53	この程度の100とか200を使っておりますのでそういう知見とかを踏まえて、
0:42:12	設定をしているところでございます。
0:42:20	はい、規制庁サグチです。わかりました。なので当局のときのQ値っていうのは実際に例えば何かで測定をした値ではなくて、基本的には文献で言われたの一般的に言われてるっていうとちょっと語弊があるかもしれないんですけども、いろいろな文献を参照して、
0:42:30	その中で言われているような旧値を使っていたと、そういう理解でよろしいですよ。
0:42:30	九州電力のモトムラです。そういう御認識でよろしいかと思えます慣用値みたいなものを使ったということでございます。

0:42:47	やはりサグチです。ありがとうございます。そうすると、9 ページ目以降に行きますけど、今回は自身もの観測記録ですよというのが来許可に比べて 58 地震という増えましたと。
0:43:00	ということで、そういった観測記録も重視するというのか、むしろ観測記録を使っているいろいろQ値を同定して、
0:43:12	そのQ値に従って地下構造モデルを更新したという。今ご説明だったと思うんですけど、そうすると、10 ページってこれって、
0:43:16	既許可でもう実はいろいろこう
0:43:22	同定をされていた地盤減衰で当然あったわけなんですけど。
0:43:28	で、既許可でこれを使わなかった理由っていうのをちょっと教えてもらっていいですか。
0:43:44	はい、九州電力のモトムラでございます。ご指摘の点ですけども、当時設定再稼働審査のときにもですね、ここで示しております伝達関数による同定というのは、実施しております、当時から
0:43:48	減衰が大きいかなっていう感触は持っておりました。
0:44:01	ただ今回みたいにですねいろんな多面的な検討でありましたり、検証っていうのがなかなかできておりませんで、本当に地盤減衰が大きいのかどうかちょっと
0:44:17	確信が持てなかったと今回いろいろですね、観測も増えましたし、最新の技術的知見も踏まえて、多面的な検討、それとあと検証もできましたので、仙台の今回、
0:44:20	地盤減衰のほう衛星通過したという
0:44:22	ことになります。以上です。
0:44:43	はいサグチです。わかりました。お考えはわかりました。11 ページ名とかで地下構造モデルいろいろ同定されてさらに元帥も同定をされているというかも言ったんですけど、今減衰についてはこれ 90 と
0:45:00	めっていう形で、これはいわゆる周波数依存型という形で多分到底をされてたんじゃないかなと思うんですけど、それに対して結局あの時もそうなんですけれども、今回もそのQ値を周波相違条文ではなくて、一定の値として設定するっていう
0:45:02	ちょっと考え方。
0:45:04	それ御説明いただけますでしょうか。
0:45:23	九州電力のモトムラです。確かにおっしゃる通り、鉛直アレイ観測記録については、一般的によく振動数依存でQ値を設定したりとか、しますけども、今回低振動数が、
0:45:30	もうちょっと元帥が起きそうですけれども、今回 12.5 で

0:45:38	周波数みたいによらず、補正もあるかと思しますので、一律で設定させていただきます。
0:45:55	はい、サグチです。今の御説明だと、つまり周波数依存より今の一定の元帥のほうがより保守性があるというそういう御説明でした今、
0:46:10	九州電力のモトムラです。一応そういうふうにはいるんですけども、確かに振動数依存でやってるところ、一律ですね、やってるっていうのは、
0:46:13	御指摘の通りだとは思んですけども。
0:46:28	サグチですすみませんちょっと今よくわからなかったんですけど、ということは、周波数依存の方が実は保守的
0:46:38	御社はお考えですか、それとも今のQ値で一定のほうが補修的であると、ちょっと側溝そこははっきりというか、
0:46:48	聞かせてください。しかしですが、すみません九州電力のモトムラです。今回の一律に設定した場合のほうが保守的だと当社のほうは考えてございます。
0:47:03	サグチですわかりましたなので、いろいろ周波数ブレード依存で同定はしてるんですけど、今の保守的な立場に立つという観点で一定というもので設定という
0:47:09	御説明ということで一応理解はしましたありがとうございます。
0:47:11	それで、ちょっと
0:47:16	釜山の方からも少し確認。
0:47:18	あったと思うんですけども、
0:47:27	で観測で今マイナス 118.5 メーターですね、地震計が最新部が
0:47:29	例えばどこどこがいいかな。
0:47:34	当 2019 ページ目以降ですか。
0:47:41	一応観測で
0:47:57	妥当性というのかなんていうのが 1 整合性みたいな確認をした例を 3 だったからコメントというのか、確認があったように、じゃあこのマイナス 118 メーターより深いところの
0:48:13	Q値の妥当性を、何をもって確認をされているかっていうと、さっきの友沢ほかでやられているブロックインバージョンで出されたこれ増幅度増不動とかサイトウ特性ですよ。
0:48:16	サイト特性と比較して、
0:48:23	妥当なんじゃないかと御説明をされているわけなんですけれども、
0:48:33	まずそういう理解でいいですよ。当然ながら直接何らかの観測記録を使って御社がみずから
0:48:39	この妥当性を確認されているわけではなくって、

0:48:45	文献で示されているものと比較して妥当性があると。
0:48:48	いう説明でよろしいですか。
0:48:50	。
0:48:57	九州電力のモトムラです。流れとしては、県政の流れとしては
0:49:12	おっしゃられたという、ご認識でよいかと思えますけども、友沢ほか 2010 件については、他の方が発表したものでもございませんので我々も実はちょっとこの検討に入ってまして、我々も検討しながら、
0:49:24	地盤増幅率っていうのを、全体のですけれども、地盤増幅率の方、求めていますんでそれを吊っ踏まえまして今回妥当性検証ということで示させてもらっています。
0:49:35	はい、蘇武です。ということも今日、これは今日ちょうどあるということで、先ほどちょっとさんから
0:49:39	確認ありましたけど、これ、
0:49:42	このブロックインバージョンで
0:49:46	増幅サイト特性を出すときって、
0:49:54	ごめんなさい、ちょっと私が資料見きれないだろか溶けかもしれないんですけど、何か地震とかって、結局、
0:49:59	どどの地震を使っているかみたいなことは、
0:50:02	どっか書かれてましたっけ。
0:50:08	九州電力のモトムラです。すいませんちょっと
0:50:17	あまり詳細に書いてないんですけども、地震としましてはですね 34 ページの左の図になりますけども、
0:50:31	ちょっと見にくくて恐縮なんですけど、青い弁で、地震が発生した位置を示しております、営推いろんな観測点を使っているのが、緑の四角で気になります。
0:50:40	いろんなパスを考えながら不均質性を考慮して震源伝播サイトのそれぞれの特性をあぶり出していると。
0:50:43	今回
0:50:47	説明に使わせてもらっているのが、川内原子力発電所も、
0:50:53	観測記録を使ったサイト増幅特性を示させてもらっています。
0:51:12	はい、サグチです。先ほどちょっと参画見舞われましたけど、なのでここを厚くするという意味合いでですね、もしこの実施地震という地震を使ってるかって何かわかるような例えばリストとか、多分自身は 36。
0:51:16	今使われていると思うので、そういうのが、例えば、

0:51:31	あるんであれば、特徴的な何か重立ったものだけでもいいんですけど、そこはちょっと示していただきたいと思いますので、ちょっと話戻りますけど、13 ページで、
0:51:38	同定ですよ、同定とかに使われる地震っていうのが、
0:51:42	今期許可審査と同様の観点。
0:51:48	具体的に言うとマグニチュード 5.4 以上で新置ける 200kmなんですけど、これって何か。
0:51:52	基準っていうのか、何かあった。
0:51:55	番でしたっけ、例えば、
0:52:10	細かいこと言いますけど、例えばこれがじゃあマグニチュード 5 以上とか 4.5 以上じゃ駄目なのかとか、震央距離も 200km ありますけど、500km 以内とかじゃ駄目なのか、何かそういう考え方みたいになってありましたっけ。
0:52:29	九州電力のモトムラです。ご指摘の点ですけども、決まったルールっていうのはありませんけれども我々としてはですね、よくも台とあるとの観測記録の比較とか、よくやるものだからの大とあるの適用範囲みたいなもので、
0:52:37	マグニチュード 5.4 以上、200km ぐらいっていうのがありますのでちょっとそういうものをちょっと参考にしながら、
0:52:39	やってるものでございます。
0:52:44	はい、サグチです。わかりました。
0:52:48	もしそういうのは基準基準っていうのか何かそういうのを参考に、
0:53:00	結局のところにもしあったらすみません。私が見きれないだけかもしれないんですけど、一応そういったの道路ホールの考え方じゃないんですけどその使ったデータっていうのを、
0:53:10	一応参照して決められたということはちょっと今理解しましたので、ちなみになんですけど、この 13 ページで一覧表ありますけれども、
0:53:13	これで
0:53:20	わかるんだったらでいいんですけど、可能だったらちょっと入射角ってどれぐらいなのかなと。
0:53:25	というのがちょっと今二重地震っていうのはわからないんですけど、それって、
0:53:34	何かわかりますっていうのと、もしわかるんだったらちょっとなんか最終的な表に入れていただきたいんですけど。
0:53:48	九州電力のモトムラです。入射角無ええ計算ができると思いますので、書くことは可能かなと思いますけどちょっと検討させていただいてよろしいですか。
0:53:54	大変っていうか難しかったら門別いいんですけど、
0:53:59	ただし、あと 1 個お願いしたいのですね、この 20 個の地震、

0:54:01	いや本当は
0:54:15	54 でしたっけ、新たに観測されたものをなんですけど、この特に二重地震っていうのは、実際に当敷地でどういう記録が得られたのか。
0:54:31	もちろんこういう機記録が得られますこの地震の記録が得られましたっていうのわかるんですけど、記録として、例えば最大加速度が幾らぐらいなのかって、こちらのデータ集みたいなので、本当発見一覧みたいのがあると非常にうれしいんですけど。
0:54:33	それって結構大変です。
0:54:45	九州電力のモトムラです。粗々ではありますけども、まとめつつあるところがありますので、ちょっと検討させてもらってよろしいでしょうか。
0:54:52	はい、すいません、ちょっと検討のほうよろしくお願いします。
0:54:55	すいません。
0:55:01	また戻りますけど、38 ページのところ、
0:55:05	地震基盤相当面の設定のところ、
0:55:14	今、4 マイナス 480 メーターというのを設定されているんですけども、
0:55:23	ずっと後の参考 3 行のところですかね、正しいこれがいわゆるその別記 2 で書かれている 2.2km、
0:55:29	以上ではないのでその 2.2km という影響を
0:55:36	参考のところ、
0:55:45	その前になぜこの 2 棟Ⅱ' という二つ。
0:55:57	があるのかなっていうことなんですよ。で、おそらくそれがまずマイナス標高でいうと、マイナス EL マイナス 200 メーターのところまでは Q 値を 12.5。
0:56:04	それより深いところはいわゆる既許可のまんまの尺というに
0:56:07	二相 O2 と 2' 層というのを、
0:56:09	分けられたと思うんですけど。
0:56:16	じゃあなぜこのマイナス 200 メーターで分けられているかっていうとおそらくこの 30 ページに書かれているように、
0:56:19	マイナス 200 メーターまでっていうのは、
0:56:25	ほぼほぼ、ほぼほぼというか、まああの PS 検層なんかで、速度に速度層の
0:56:30	速度に大きい違いが見られないということで、
0:56:32	されている。
0:56:36	と思うんですけど、本文分割ですね。
0:56:38	そうするとじゃあ逆に言うと、
0:56:40	マイナス。まあちょっと、

0:56:50	さんと私から確認しましたけどマイナス 200 メーターから逆に言うと、マイナス 480mあって、このVsってこれ同じですよ。
0:56:59	なぜマイナス 200 メーターで分けて、マイナス 200 メーターからマイナス 480 メーターは既許可も
0:57:02	構造の通り、Q値は 100 で、
0:57:13	で、マイナス 200 メーターから浅いところは 12.5 にしますという、このマイナス 200 メーターで分けた理由っていうのをちょっと教えてもらっていいですか。
0:57:30	九州電力のモトムラです。ご指摘の件、我々もそういう認識を持ってまして、本来であれば、速度層が一定であれば、そこまで同じ層で減衰を同じように、
0:57:50	設定すべきかなと思うところかと思えます。なので我々としてはマイナス 480 メーターまで元帥へ 92.5 っていうのも、頭に描いておりましたけども、なかなか高速度層について、直接的に我々が調査で駆使するっていうのがELマイナス 200。
0:58:08	メーターまでですので、なかなかマイナス 200 メーターからマイナス 480 メーターまで、なかなか 12.5 をそのまま適用するというのがなかなか難しいかなとちょっと思ったところがございます。ただ、ご指摘の通りですね、
0:58:13	モトムラほかのものを見ると、かなり
0:58:32	ELマイナス 200 メーターまでで周知を 12.5 とした場合のほうがまだ増幅率が大きい傾向にあるので、ひょっとしたらELマイナス 200 メーターより浅い深いところも減そうすると大きくしたほうが観測記録とは合うのかなとは思いますが
0:58:42	安全側の判断ということではマイナス 200 メーターまで周知を 12.5 としているような考えでございます。
0:58:59	やはりサグチです。わかりました。ありがとうございます。なので基本的には直接速度層が確認をされているマイナス 200 メーターまでは当然Q値は同じなんだけどそれ以降っていうのは多少
0:59:07	不確かさっていったらまあねかもしれないんですけど、ちょっとそういう要素もあるんで、ここは既許可のまま、
0:59:13	確実に観測記録等から含めてちゃんと
0:59:24	何て言うんすかね実測値という言い方がいいのかな。わかんないんですけど、明確にちゃんと自分たちの調査なりで確認されているところまでを変えますという
0:59:29	今御説明だったと思うんですけどそういう考えでよろしいですよ。
0:59:35	九州電力のモトムラです。そのようなご意向認識でよろしいです。

0:59:51	はいサグチです。わかりました。ありがとうございます。すいませんとんどん行きます。沢山あって申し訳ないんですけど、40 ページでこれは考えとかどこどこからこういう数字が出てきたのかなということだけ教えてください。
0:59:59	当然MとXeqの話になってくるんですけど、Mは、今 6.
1:00:19	Mw6.5 相当の 6.9 っていうのはわかるんですけど、x機器 10kmっていうのは何か参考にされているのか、例えばその検討チームの報告書だったりとか何かXe90kmに設定した根拠みたいなのところは、
1:00:21	何かどっかで確認できるんですかね。
1:00:41	九州電力のモトムラです。検討チームの報告書にですね、標準応答スペクトルの妥当性検証で影響の距離減衰式みたいなものと比較されているかと思えます。その諸元でいきますと土台とあるでM6.9x90kmと確か書いてあったと思うので、
1:00:43	そちらのほうを参照してございます。
1:00:46	はい。
1:01:00	サグチです。ということが基本的にそのじゃ 40 ページの一つ目の丸のところに書かれているっていうそういう認識でいいんですかこれ今見ると、
1:01:20	何かのオールが根拠になっているように見えるんですけど、その辺りちょっと、実際はどうなんでしょうし、九州電力のモトムラです。ここでの台頭あるって書いてるのはですね、AMとX域を入れて、継続性を算出する根拠としての場合とあるの。
1:01:33	式を使っているということでございまして、先ほど私が言いました検討チームの話がここには具体的には書いてませんので、ちょっと参照しようかなと思っております。
1:01:44	はい、サグチですとかありまして一応参照なりその参考とした根拠ですよ。それがわかるようにしていただきたいと思えます。
1:01:48	41 ページ 42 ページで
1:01:57	模擬地震案の作成結果っていうところがあるんですけど、この模擬地震は 1 と左下に書かれている。これ
1:02:00	葉系だけ。
1:02:13	なので、例えば、44 ページのような形で、どこがピークで、そのときに、大体そこが何がどれぐらいになってるかっていうのは、ちょっと一応念のため、これ。
1:02:17	デジタル値として示していただいていた方がいいですかね。
1:02:22	九州電力のモトムラです。承知いたしました。
1:02:34	はい、よろしく申し上げます。49 ページ目以降なんですけれども、ちょっとこれも考え方だけ教えてください。

1:02:51	今これ既許可の地下構造モデルとあと、一応これは3あくまでも参考という形で示されていますけど、再同定をするときに、先ほどもちょっと確認というか申し上げましたけど、
1:02:59	2.2kmという別記2で書かれているよりも速度の遅い2.15層っていうのがあるので、
1:03:09	参考ですけども、ちょっと2.2kmというものを設けて確認をしますというのがこのページ以降だと思うんですけど。
1:03:11	最初ですね。
1:03:15	Vsの2.15kmメートル/sの層ですよ。
1:03:18	具体的に言うと、
1:03:28	3そうなんですけど、これを2分割するという考え方、例えば2.15の通り、速度が速いんで。
1:03:33	4層っていうのを分割して、
1:03:35	今の2.15という
1:03:40	そうまでの深さはそのまま、それより深いところで調整をするという
1:03:43	考え方もあると思うんですけど。
1:03:47	それをなぜこの3層っていうものを分割して、
1:03:52	やったのかっていう、ちょっとその考え方を教えていただけますか。
1:04:10	九州電力モトムラです。確かにおっしゃる通り、4層ですかね、Vs3000のところぐらいのところに分割っていうことだとは思いますが、そういう考え方もありますけどこれはちょっと参考的にA3層の2.15。
1:04:17	とりあえず辺りも近いもんですから、2分割して検討してたと。
1:04:20	ということでございます。
1:04:36	はい、サグチするわかりましたので基本的にその2点に近いに近いところなんで2.15なので、これはなんていうんすかねん参っか少なくとも
1:04:47	2.2に近いところで分割すると、そういうお考え方っていう今説明だったのでそういう理解をしましたので、ありがとうございました。
1:04:49	あと、
1:04:53	これもちょっと
1:05:04	いやその前に53ページですね、これはコロンもちろん参考のところなので参考程度という形で御社が御説明されてると思うんですけど。
1:05:09	三つの方法をそれぞれ
1:05:18	検討しましたと。これは当然ガイドに書かれているということなので、検討したんですけど、この方法cの中で、
1:05:25	用いている壇他この横ずれ断層を想定した。

1:05:36	ていうなぜ横ずれ断層を想定されているのか、多分ですね、既許可含めてよく見てればわかるのかもしれないんですけど、この
1:05:40	なぜ縦ずれじゃなくて横ずれを採用したのかっていう
1:05:42	ところをちょっと教えてください。
1:06:01	九州電力のモトムラです。玄海仙台ともに九州地方、一部正断層ありますけども、横ずれ断層が卓越してるかと思えますので参考的に横ずれで今回実施させていただいているということでございます。
1:06:15	はい、サグチです。多分それってどこにもなかったかと思えますけど、私も多分そうじゃないかなっていうあくまでも九州地方のこの断層の特徴みたいなものを踏まえて、
1:06:21	こういう形でされているのかなと思う人だったらやっぱりそこは何かわかるような形で、
1:06:27	それは既許可でも示していると思えますけど、まあちょっと、そのあたりは、
1:06:32	起債記載でいいのかな。なぜ横ずれを
1:06:37	選んでるかっていうのはわかるような形で記載をしていただきたいと思えますけど。
1:06:39	どうぞ。そのあたり、よろしいでしょうか。
1:06:43	九州電力のモトムラです。承知いたしました。
1:06:46	はい。
1:07:03	どんどん来ます 54 ページ 55 ページ、これはちょっとお願いなのですが、さっきと同じような形で、例えば 54 ページだったら、観測記録等模擬地震に当たるんですけど、それぞれピークのところは今丸つけてますけどここの位置で何Galぐらいかっていうのは、
1:07:08	わかるように、この 54 ページ 55 ページは書いていただきたいと思えます。
1:07:13	九州電力のモトムラです。承知しました。
1:07:26	はい。当サグチですけども、60 ページすいません。ちょっとこれがよくわからないというか
1:07:32	おっしゃりたいことはわかるんですけど、ここで言う短周期側において、
1:07:39	という短周期側というのは具体的にどれぐらいのその周期体のことをおっしゃってるんでしょうか。
1:08:00	九州電力のモトムラです。この資料でいう短周期とはですね、大体 1 秒以下の方のことを言ってまして、この図を見ていただくと、1 秒以下で赤の方がおっきいところが見えますので、一応短周期側っていうのは、1 秒以下とさせていただくかと思えます。

1:08:17	はい、サグチです。わかりましたじゃ 1 秒以下ということですね。ちなみになんですけど、当然設計のところではですね、0.02 秒のところが重要になってくるんですけど、それはあくまでも応答スペクトルの値であって、
1:08:23	こういったエネルギースペクトル入力エネルギースペクトルとか、あんまり
1:08:33	関係ないって考えていいんですかねっていうのは 0.02 秒見るところ、緑の線だから方法の C ですよね。こっちのが大きくなってんですけど、そのあたりいかがなんでしょうか。
1:08:53	九州電力のモトムラです。確か応答スペクトルで県連量という、最大化速度みたいなものをイメージできるかと思えますけども、エネルギースペクトルについては、横軸硬くてつくった横軸が周期で音スペクトルと同じになりますけども、
1:09:08	なかなか実際の構造物とか見ますと周期によって、0.02 秒の化物とか、あまりちょっと想定できませんけれども、それぞれの周期体によってエネルギーの入力料が違うと。
1:09:13	いうことでありまして、ある周期体で見ますと、
1:09:20	ほとんどの周期体で赤のほう合ってるというような見方でよいかというふうに思っています。
1:09:30	はい、サグチです。一応確認はできたんですけど、これ以上と言うと議論になるんで、やっぱりやめておきますけど。ちなみに、
1:09:36	0.02 秒の辺りて 5 号のものってそのまま設計で入れてませんでしたっけ、そこだけちょっと確認させてください。
1:09:59	九州電力の赤司でございます。英語がきちっと技術移転はおっしゃる通り、0.02 条のやつがそのまま入ってますけども、その手前で、まず息切れ 1 秒から 0.2 秒程度の建屋、
1:10:13	ゆすったときイソダとびあの床応答として入りますので、例えばこのページの絵で書いてるやつの関係がそのままになる英語ではないような建屋のフィルターが入った上でというふうにご理解いただければと。
1:10:14	以上です。
1:10:22	サグチですわかりましたんなのでそのともこの 60 ページそのままこれ入るわけじゃないっていうのはわかりました。
1:10:42	あとじゃあとということば 62 ページで言うこの短周期側っていうのも、ごめんなさい 11 秒以下という話でいいですかそれともこれはもうちょっとこう狭い強帯域の話なんでしょうかとちょっと教えてください。九州電力のモトムラです。確かに
1:10:51	今日大気に見えるかもしれせんけども、上、1 秒以下ぐらいかなっていうふうにご考えております。

1:11:09	はい。ちょっとわかりません短周期側というの基本 1 秒以下ですよという、そういう御説明だったと思うんでごめんなさい後、本当に長くなって申し訳ない。再最後なんですけど、ちょっとこれはわかりにくいとかちょっと誤解が、
1:11:13	出ないかなと思ってちょっと心配してるのが 65 ページで、
1:11:18	これ、既許可との
1:11:21	影響なんですけど、
1:11:24	65 ページ。
1:11:29	これハイブリット合成法で緑と青クック比べたら、
1:11:32	これほぼほぼ 1 ですね、特に短周期側、
1:11:34	なんですけど、
1:11:38	69 ページこれ多分同じですよ。
1:11:45	名でハイブリッドではなくてこれは単純に統計的グリーン関数法だけでやった場合、
1:11:51	だと緑と青っていう何かこう、特に短周期 0.5 秒以下とか、
1:11:54	何か大きく変わってるんですけど、これって、
1:11:59	65 ページ、69 ページして当然ハイブリットからとか統計的
1:12:03	単体かだけだと思うんですけど、何でこれ今後
1:12:05	違いが出ちゃうんですけど。
1:12:21	九州電力のモトムラです 65 ページ 66 ページに、の応答スペクトルについては、短周期側経験的グリーン関数法をどちらとも用いていますので、短周期はもうほとんど一致すると。
1:12:31	変わってくるのが理論的な方法になりますので、長周期のほうで若干減衰の影響を受けて、緑と青が若干ずれてる。
1:12:37	お互いハイブリッドで比較していますので、短周期は変わらない。
1:12:54	一方ですね、69 ページの 60、69 ページ 70 ページについてはAirCore経験的グリーン関数法で青と緑、統計的と書いてますけども、
1:13:00	長周期側はハイブリット合成法で理論的方法を使っていますので、あまり変わらないと。
1:13:09	ただ、統計的グリーン関数法短周期側で使っている影響で地盤の減衰の違いによって、多少違いが出てきている。
1:13:15	というようなことなんですけれども、よろしいですかね。はいサービスわかりました
1:13:24	いや、やられてることわかりました。ちなみに 69 ページ目以降っていうのはこれは経験的も統計的にも、

1:13:29	これ両方ともハイブリッドでやられているって裾そういう理解でいいですよ ね。
1:13:47	九州電力のモトムラです。そういう御理解でよろしいですか。どちらともハイブリットしているということでありまして、ちょっとすいません既許可のところでも経験的と統計的という書き方をさせてもらってますので、ちょっとあわせて帰ってしまったということです。
1:14:03	ちょっとお金のないような記載にしたいと思います。はいサグチですわかりましたあのやなので結局 65 ページっていうのは、これ経験的のハイブリッドなんで、いわゆる理論的のところしか変わらないんで長周期のところが微妙に変わるんですけど。
1:14:19	短周期のところは一切変わらないとで 67 ページ目以降はハイブリットと 69 化されているんだけどこれはあくまでも経験的もう統計的にも同じ条件で同じハイブリットでやられているので、
1:14:30	統計的とグリーン経験的の違い、要は地下構造の違い、違いというか、そういうところが反映されて差が出ているとそういう御説明ということでよろしいですよ ね。
1:14:35	九州電力のモトムラです。そういう御理解でよろしいかと思えます。
1:14:45	はいサグチすみません長々といういろいろ確認をされてさせていただきましたけど、一応私の確認したかった事項は以上ですので、ありがとうございました。
1:15:16	規制庁の田嶋です。ちょっと 2 点ほど確認というかそうですね、確認させてください。高地まず最初、50 ページなんですけれども、50 ページ、
1:15:32	ものからの参考で例えば入力する地盤のVsとかを変えた場合というのもされ検討されてるんですが、この場合、このやり方というのはわかったんですけども、
1:15:50	単純にこの 2.15 の下の 3.01 っていうのも、基本的には地震基盤相当の面に対応するそうかと思うんですけど、そこから入力した場合の確認っていうのがされていないんでしょうかっていう確認が一つ目。
1:16:01	すいません九州電力のモトムラです。すいません今日まだそこまでの検討までは実施してませんでちょっと手元にちょっと
1:16:03	ない状態ですけども、はい。
1:16:07	わかりました。
1:16:08	ただ、
1:16:14	そうですね、確認がそうですねあったほうが、
1:16:29	よりよいかと思えます。あともう一つが 53 ページなんですけれども、手法Bについてなんですけれども、ここでは 1997 年の 5 月 13 日の鹿児島県の北西部の

1:16:44	地震っていうのを選んで移送に選んで採用してるんですが、地震以外にもリストす 11 ページとかには別の地震もリストにあったかと思うので、この地震を選んだ理由ですとか、
1:16:50	この地震の場合となのかというのも、記載があったほうが、
1:16:53	いいのではないかと思ったんですが、いかがでしょうか。
1:17:09	九州電力のモトムラです。ご指摘の期限点は今回鹿児島県北西部地震を選定してるんですけども、その選定理由みたいなものを記載というようなイメージでございますか。
1:17:20	そうですね。それと理由にもよるかと思うんですけども、ほかの地震でも確認できるのであれば 1 地震だけでなく、
1:17:25	その理由したいという気はするんですが、複数の
1:17:30	観測記録のほうで確認があったほうが、
1:17:37	よいかと思えます。ただ、理由としてこれしか使えないという理由があるのであれば、その理由だけでもよいかと。
1:17:57	九州電力のモトムラです。今回 1997 年の 5 月 13 日の鹿児島県北西部地震を選定した理由としましては、もともとの審査ガイドで 14 地震っていうものがありました。あと、今回の今日情報等スペクトルの 89 地震、
1:18:04	ほかありますけども、そういうを見ながらですね。先代原子力発電所の敷地地盤の観測記録を眺めたときにですね。
1:18:17	鹿児島県北西部地震というものをピックアップしたわけですけどもその中でも地震動レベルが一番大きかったものを今回抽出してございます。
1:18:22	ちょっとほかの地震のっていうことですが、ちょっと検討させてください。
1:18:29	ありがとうございました。今伺って確かに観測点というか、観測地点が、
1:18:38	敷地内のものでなければいけないのかということも含めてそうですね、何か御説明があったほうが、
1:18:47	最初の議論の際にはよいかと思えますのでこの説明でどこの地点の記録なのかということも一応書いておいて、
1:18:50	他方がよいかと思いました。はい、ありがとうございます。
1:19:10	規制庁サグチですけど、ちょっと関連して 54 ページでこの観測記録ってされているのは、今ちょっと田嶋のほうから確認をしましたけど、
1:19:13	これ実際どこで観測された。
1:19:16	ものなんですけどこれさっきの
1:19:18	鉛直アレイのマイナス。
1:19:29	118.5 メーターのところ観測された記録なのかそれとも用地表の EL11.0 で観測されたものが、ちょっと教えてください。

1:19:33	九州電力のモトムラです。
1:19:36	地表の記録を使っています。
1:19:54	はい。わかりました。地表記録ですねということなので私ちょっと冒頭で言いましたけど、できればそういったリスト観測された地震のリストみたいなのはちょっと用意していただければと思うんですけど、ちなみにこの地震、この地震ていわゆるその
1:19:57	経験的グリーン関数の
1:20:02	法の要素地震とか種地震とかという地震じゃなかったでしたっけ。
1:20:20	九州電力のモトムラです。経験、特定してのほうの経験的グリーン関数法の要素地震につきましては、この鹿児島県北西部地震の要素地震ではありませんで、九州西側海域といった海域の
1:20:30	予想地震を用いています。ただ、鹿児島県北西部地震は仙台の敷地周辺で非常に大きな規模の地震だったということから、
1:20:40	震源を特定しての断層モデルの断層パラメータの設定で鹿児島県北西部地震の検討をしましてそのパラメーターを
1:20:45	用いているというような検討はしてるような記録になります。
1:21:03	はいサグチですわかりました。私もちょっといろいろ急患でいろいろ確認しておりますので、先ほども出んですね、リストリスト発見まで出せ出せれば一番いいんですけどちょっとそこは本当にご検討ください。
1:21:09	九州電力モトムラです。ちょっと検討させてください。
1:24:21	規制庁サグチですすいません本当に非常に細かいことっていうのか記述的な話になっちゃうかもしれないんですけど、ちょっと教えていただきたいのは、14ページで同定をされているんですけど、今ここで示されている。
1:24:24	赤線青線苦労選定当然あるんですけど。
1:24:27	この青線が
1:24:30	青線というのが点線なんですかね。
1:24:43	伝達関数なんですけど、この伝達関数は何かスムージングなんかかけられています。一方で、理論で使っている。この赤とか、
1:24:44	苦労
1:25:00	っていうのは何、何か同じような観測記録と一緒にようなスムージングとかなんかそういう処理がされているのかということと、同定の実際に同定するときっていうのは、スムージングっていう作業は、
1:25:04	されているのかどうかっていうのをちょっと教えてください。
1:25:27	九州電力のモトムラです。ちょっとすみません、確認させていただいてよろしいですか。ちょっと手元にちょっと

1:25:28	持ってませんで、
1:25:33	はい、どうぞ。14 ページですよ、本編の
1:25:41	本編というか、14 ページの絵で 14 ページでスムージングをかけてるかどうかちょっと確認させてもらってよろしいですか。
1:25:53	はい。なので、別に今すぐ答えられないんだったら別にそれは別に後日回答していただければいいと思いますので、晶出しました。
1:26:30	規制庁のうるさくなって、同じ 4 ページのさ。
1:26:33	操作口からのコメントを考えてますが
1:26:36	14 ページの、何か緑、
1:26:38	青の線と、
1:26:46	12 ページで比べて何かなめらかった 7 になってる方が住むDのほかに例えば、
1:26:54	今回の遠い地震が沢山入ってますから、前回の方がいないから、その辺の影響あるかどうかのが、
1:26:58	転落関数の計算のほうですね、どういう手法を使って、
1:27:02	いろいろ人によって多分違うからその辺のも、
1:27:06	もう 1 回の方が終了。
1:27:09	もう少しちゅう使ってくださいと思います。
1:27:30	九州電力のモトムラです。12 ページと 14 ページの青線を見られて 14 ページのほうがあえ滑らかになってるんじゃないかっていうお話だとかを認識したんですけど、当時、12 ページのほうは五つの地震の平均伝達関数を用いてまして、
1:27:44	一方、14 ページについては、今回 20 地震の平均伝達関数で検討してますので、その影響もありまして、ちょっと平均で平滑化されたんかもしれないので、ちょっと確認させてください。
1:28:17	規制庁サグチですすいませんついでと言ったら申し訳ないんですけど、いろいろ多分、今回とこまで確認されると思うので、次回ちょっとお示しいたきたいのは、結局先ほど 3 いましたけど、どういう方法を使っているのかっていうのがあるんですけど。
1:28:35	なのでちょっとすいませんここだわるんですけど、なぜはっきりを出してくださいっていうのは、実際に派遣のどの部分ですとか、データの数がどれぐらいを使ってされているのかっていうのをちょっと確認をしたかったんで、データを出してくださいっていうのはちょっと
1:28:45	こだわったんですけど、これちなみに同定で使われているデータ数っていうんですかね、何秒間、例えば

1:28:59	伝達関数を求めるときに、地震班の何秒間ぐらいを切り出してやっているのかとかそういうこともできればですね、次回までに確認をして
1:29:03	お知らせというか、報告していただきたいんですけど。
1:29:05	揚水です。
1:29:10	承知しました。ちょっと詳しく
1:29:12	まとめたいと思います。
1:29:24	はい、佐口ですよろしくお祈いしますちなみになんですけど、ごめんなさいの本当に 15 ページ 16 ページで、これもいわゆる
1:29:35	干渉法の時っていうのは、生のデータをそのまま使われているのか、例えば何かフィルタみたいな、何ヶ所処理をされているのか、ちょっとそれも、
1:29:42	確認をさせていただきたいんですけどもちろんこれを今お答えできないのであればまた後日で構いませんけれども、
1:29:50	九州電力モトムラです。ちょっと今答え切れないので後日でお願いいたします。
1:29:54	はい、佐口です。すいませんそのあたりよろしくお祈いします。
1:30:55	規制庁サグチですけども、すいません、あと 1 点だけ、ちょっと確認をお願いになるかもしれないんですけど、あの玄海では、この参考 2 のところの最後のあたりで複数の手法でそれぞれ模擬地震は
1:31:00	作って、実際に解放基盤まで持ち上げてですね、その結果を示して、
1:31:14	いただいていると、今の資料で思うんですけど、この川内は特にそういう資料がないんですけど仙台は実際に持ち上げるような検討というかそういう作業はされていないのでしょうか。
1:31:23	九州電力のモトムラです。同じように、解放基盤まで上げるだけですので、
1:31:27	ちょっとすいません今日は提示できてなかったぐらいです。
1:31:41	サグチです。ちなみに形跡計算はまあすぐ当然できるんでしょうけど、なので、仙台の方が計算されていなくて限界は計算されているという、そういう
1:31:56	理解でよろしいのかというのと、ちょっとその辺りで仙台玄海とも同じことやっているものに学んでその資料的にちょっと違うのかなと、何かその違っている考え方の違いみたいなのかなと思うんですけど、その辺り特に
1:32:00	違いはないって理解してよろしいですか。
1:32:05	九州電力のモトムラです。そうですね特に違いはないんですけども。はい。
1:32:24	はい。サグチですわかりました。可能だったらいいんですけど、当然最終的には我々が見るべきものが解放基盤面における応答スペクトルですので、限界と申し上げ、
1:32:28	可能であれば、せるような形で示していただきたいと思います。

1:32:36	九州電力のモトムラです。おっしゃる通り、玄海線外整合させたいと思います。
1:34:11	規制庁クマガエです。
1:34:16	今いろいろとですね確認させていただいて、
1:34:20	コメントさせていただきましたので、それぞれのコメントについてまず、
1:34:25	お答えをちゃんとしていただきたいというふうに思いまして中でもですね、
1:34:27	そのデータをですね、
1:34:40	そろえてくださいとか出してくださいとかっていうのもありましたので、それについて今お持ちのデータはですね、今あるんであればきちんとそれらもですね、ちゃんと提示して見えるようにですねしていただければと。
1:34:42	思っております。
1:35:11	設置をクマガエです。
1:35:13	ですので
1:35:17	今いろいろとやった内容についてはですね。
1:35:20	きちんとその資料のほうに落としていただいて、
1:35:24	データとして出していただくと。
1:35:28	新たに何か成果で、
1:35:32	ありがとうございますこれやってくださいっていうのは、特に今言っていないと考えるとまずけども、
1:35:36	その考え方としてどういうふうにやってるのかっていうのはですね。
1:35:40	資料のほうに記載をしていただければと思います。
1:35:59	規制庁ナイトウですけれども、今但馬ファンモデルさんもサグチからもう事実確認として、これ考え方よくは決まってきたとわかんないんだけどって話で確認させてもらった話については記載をきちんと明確に変えてください。
1:36:04	というサグチの方からの
1:36:21	関係するところだけど、バックデータのところについてはそれはちょっと整理したやつを出してくださいというのは、これはベースなかったからお願いをしますんで確認している中で今計算してないからわかんないと思ってないですとかっていう話について計算し出してくださいっていうのは今時点ないので、
1:36:30	今手持ちで持っているものについては、きちんと確認して思ってますって話でものについてはちゃんとつけていただきたい。
1:36:32	ということです。よろしいですか。
1:36:46	九州電力の赤司でございます承知いたしました。今持っているものはすべて落とし込み資料充実をさせていただきます。よろしく願いいたします。
1:36:55	はい、施設のナイトウです。大体目の子どものくらいかかりそうですか作業。

1:37:16	時不連続なアカシでございますので、概ねも持ってるものを落とすだけでは ございますけどもひと月AREVA準備できるだろうというようなスピード感かな と思います。
1:37:28	すいません。もちろん、もっと急ぐより努力はいたしますけれども、
1:37:34	空き地などですけれども、時間のやっぱり地震のデータ。
1:37:52	ですか。もう成立のやっぱりおっしゃるおっしゃる通りです。データを並べてそ れこそ誤記天気等のミスがあっちゃいけませんのチェックもいたしますので、リ スト化しデータ集な形でところではちょっとそこ
1:37:55	時間というか、手間がかかるかなと今ちょっと思っております。
1:38:18	期中においてですけれども、わかりました。ではちょっとうちもデータ、
1:38:23	がそろってからやるのかも含めて考えます。
1:39:09	。
1:39:12	規制庁の伊藤ですけども。
1:39:15	これ、1ヶ月ぐらいデータそろえる時間かかって、
1:39:17	今使ってる。
1:39:18	20
1:39:21	でもそのぐらい。
1:39:25	全体データ 50 幾つられると。
1:39:27	結構です。
1:39:34	九州のアカシでございます。もう使ってる 20 でよければもっとスピードアップで きます。
1:39:37	。
1:39:51	規制庁ナイトウですけれども、使ってる 20 はマストになるので、そこまではま ず整理した形で 1 回出せるんだったら足してもらおうという形にしたいんですけど よろしいですか。
1:40:03	旧汀線がアカシでございます承知いたしましたまずは 21 回スピードアップして 準備をさせていただきます。それと、
1:40:06	2 週間ということで、2 週間が準備できると思います。
1:40:12	はい。お手間かけますけど、アクセントアですけど手のかけますけどよろしく お願いします。
1:40:22	そうすると、
1:40:24	仙台は後、
1:40:28	地盤斜面の安定性を
1:40:31	割くと説明されたいってことですね。

1:40:44	はい、九州電力のイマバヤシです。時間をさせてもらっておりますけども、もし時間いただけるようでしたら、簡単に御説明させていただければと思っております。
1:40:48	説明させていただいてもよろしいでしょうか。
1:40:49	はい。
1:40:50	ありがとうございます。
1:40:57	旧九州電力カワチです。Yes。
1:41:01	E002 のA3 の資料を用いまして、
1:41:17	基礎地盤及び周辺斜面の安定性の概要につきましてご説明いたします。設置化基準規則第三条及び第 44 号に係る鋭意地盤及び周辺斜面評価すべき対象していくことは、
1:41:33	回収重要施設を支持内包する建屋、建物構築物該当します。また 38 条及び 39 条第 2 項に係る地盤及び周辺斜面を評価すべき対象施設は、常設耐震重要重大事故防止設備、
1:41:45	常設重大事故緩和設備またはそれらをC内包する建物構築物及び特定重大事故等対処施設を支持内包する建物構築物が該当します。
1:41:49	設置許可基準規則の解釈等の
1:41:54	改正に伴いまして、上記対象施設が、三条、四条、
1:42:00	及び第 38 条 39 条に適合するように設置いたします。
1:42:16	評価対象施設の基礎地盤につきまして、基準地震動 S_s1 による地震力は、今回 S_s3 としまして、こちらを入力して安定性を評価しました結果、産業及び 38 条に適合するということを確認しております。
1:42:21	また評価対象施設の周辺には、
1:42:28	安定性評価の対象とすべき斜面はないということで許可通りの評価をしております。
1:42:40	図 1 に評価対象施設の位置図、特定重大事故等対処設備を除いておりますけれども、評価対象とした
1:42:54	施設の位置を示しております図に例として、龔断面の鉛直岩盤分類図 3 に基準地震動の加速度応答スペクトル S_s3 す。
1:43:00	今回入力しております表の 1 に評価結果一覧として、
1:43:03	基礎地盤及び周辺斜面、
1:43:16	基礎地盤については評価基準値を満足系周辺斜面といった評価対象斜面なしということで強化しております。こちらにつきましてはほんま地震動
1:43:18	の審査が
1:43:25	終わった後にですね、これまで許可で御説明しております

1:43:37	まとめ資料を 2Ss3 を追加する形で評価結果について御説明していくという形で考えております。説明は以上です。
1:43:38	。
1:43:40	はい。
1:43:59	町クマガエです。はい。ご説明ありがとうございました。
1:44:00	はい。
1:44:01	まず
1:44:07	基準地震動のですね、話をしてあと 2 街こちらについてはまだ
1:44:10	確認させていただければと思いますのでよろしく願いいたします
1:44:39	規制庁クマガエそれでは、センターのヒアリングについてはですね、これで終了させていただきたいと思いますが、確認点と九州電力アカシでございますすみませんちょっとこちらから 1 点だけ御確認させていただきたいがございまして、もうちょっとだけお時間いただければと思います。
1:45:00	先週なんですけれども、全体の変更申請についてのプラント側でのヒアリングをして押していただいているんですけれども、そこでですね名倉調査官のほうからちょっと御指摘があって、我々がちょっとぴんとこなかったところもありまして、
1:45:04	ご一任というか、
1:45:23	教えていただければご教示いただければと思うところなんですけど、具体的に御指摘があったかという、今回県 6 地震の見直しって、変更申請で Ss を見直し、変更申請してるんですけれども、なくなん調査機関には、地震ハザード評価、
1:45:42	についても変わるんじゃないかということと、当然ハザード評価が変われば拳銃の PRA 評価中も変わるんじゃないのかということだったんですけれども、停止ちょっとながら調査官ちょっと我々も正確に肩書き聞き取れていたわけではないかと思うんですけれども仲條作品を確か。
1:45:53	検討チームの中の検討でも、そのハザード的な検討がやられてたので、当然、標準とスペクトルで検討するにあたってハザードも変わるんじゃないのっていうのは
1:46:10	だったんで、我々ちょっとそこにぴんとこなかったもので、ちょっと今日、申し訳ございません。たまたま元様いらっしゃるので検討チームの検討過程なんかを踏まえて、確かに今回変更するにあたって間組が引っかかるところがあるでってぴんとくるところが、
1:46:15	終わりかどうかちょっと動き家事いただければと思ひまして、お尋ねさせていただいております。

1:46:32	ちなみに我々の認識としては、ハザードを計算する側のいろんなデータ条件等が変わってるわけではないので、ちょっと今回謝罪をどう見直しということにはならないのかなとは考えてるんですけども。
1:46:39	何かちょっと我々がピンチじゃないところがあればと思ってお尋ねさせていただいている次第です。
1:48:39	規制庁ナイトウですけれども、これ特定せずだから、
1:48:42	ハザードとしては、領域がある。
1:48:44	震源として見る。
1:48:52	ですよ。そこの部分で領域震源として見るときにし新たな知見として反映する事項があるのかなのかってのは、
1:49:03	御社がどういう検討されているのかわからないので、何だったらない低で変わらないっていうのでもいいんだけど、でも、新たに採用するから、
1:49:12	Ss作業するだったら、それも含めて、発生頻度として10の安全レベルになるのかというのはきちんと示してもらわなきゃいけない。
1:49:13	じゃないの。
1:49:32	九州電力アカシでございます。当然これ新たに策定したものとしては水深がどれぐらいかっていうのはもちろん、30 厳しいという、今の申請書の中でもお示してるんですけども、その3参照する照らし合わせると、ハザード側、
1:49:50	が変わるんじゃないかっていうことだったんですけども、そこは何がしかそこでからタニてた条件が加わる変わるというものではないので、我々は市は変わらないで照らし合わせる側の相手側のものに標準語と
1:49:58	スペクトルを踏まえた新たなSsを超えましたのでじゃそれが超過確率としてどの程度かぶって参照をもちろんいたしますけれども、
1:50:13	どうも中村調査官のご指摘がそうじゃなくて、ハザードかわからないんじゃないかってのは御指摘だったので、焼き検討チームの検討過程なんか見ても、ちょっとそこが変わるような条件の変化はなかったという認識はしてるんですけども。
1:50:52	規制庁サグチですけれども、一応参考までに今回、当然いろんな、地震の同定で熊本地震使われてるんですけど、これってなんか全然関係してですか、要は熊本地震の話ですが、領域震源として、
1:51:28	九州電力の赤司でございます。要はトークというせずつにかかわらず、熊本地震も含めていろいろちょっとデータの全般的にデータ更新をかけるとほぼそんなに変わらないと思いますけど若干の
1:51:31	変化が出る可能性はございます。

1:51:48	今回の変更申請にあたってはそういう全般的なデータ方針までは取り込んでいないというのが正直なところでございます特定せず、特に表情とするスペクトルを踏まえた検討のところ、
1:52:03	例のエフピコでやっておりますので、もし全般的なデータ方針という観点でいきますと、確かにハザードが変わらないよって言われると、企業の変化はあるかもしれないというのがちょっと答えにはなりません。
1:52:20	要は、そういう関係で御指摘を受けたのは受けてたのか、全く別の観点我々が気づいていないところではサグチに何か引っかかるべき場所があるんあるのか、ちょっとその辺が我々がぴんときてなかったものを経すいませんちょっと細かいお尋ねさせていただいてるところでございます。
1:53:03	規制庁の伊藤ですけども、いずれにしろ変わるのか変わらないのかってのはきちんと考え方整理してもらって説明をしていただかないといけないと思いますので名倉がどういう趣旨で言ったのかなきゃいけないとわかんないから。
1:53:12	我々もちょっと今君ん何を懸念されて言われたのかとはちょっと我々も把握はしていない提出する。
1:53:28	というのと、熊本の知見をハザード冷凍あれ領域震源としての部分では取り入れて、今はやっていないという。
1:53:29	状況っていうことで、
1:53:30	なんですね。
1:53:36	九州電力の赤司でございます減じ現状としてはそうです、ハザードがそうです。
1:53:39	うん。
1:53:45	はい。規制庁の状況としてわかりました。
1:55:04	九州電力の赤司でございますこちらからハーグ核北方こと以上でございます。ありがとうございました。
1:55:13	規制庁クマガエです。
1:55:18	それでは、川内のヒアリングについては以上で終了させていただきます様でした。
1:55:21	審査。